2025年度（第50回）学術研究振興資金　学術研究報告

学　校　名	**神　戸　女　子　大　学**	研究所名等	
研 究 課 題	演能記録の調査･保存及び演能記録データベースの構築	研 究 分 野	文　　学
キーワード	①能楽　②能　③狂言　④能番組　⑤能組　⑥演能記録　⑦狂言番組　⑧能役者		

〇研究代表者

氏　　名	所　　属	職　　名	役　割　分　担
樹　下　　文　隆	神戸女子大学文学部	教　　授	総括･中近世能番組･幕府･藩の記録

〇研究分担者

氏　　名	所　　属	職　　名	役　割　分　担
井　上　　勝　志	神戸女子大学文学部	教　　授	近世芸能･番付･興行記録
長　田　　あかね	神戸女子大学 古典芸能研究センター	研究員(非)	中世芸能･近世能番組･能楽諸家記録
大　山　　範　子	神戸女子大学 古典芸能研究センター	研究員(非)	中世芸能･近代能番組･近代雑誌

演能記録の調査・保存及び演能記録データベースの構築

1. 研究の目的

能・狂言の上演記録である能番組は、上演の日時、場所、曲目、演者名などが記されるだけでなく、時に、演能の趣旨、主催者側の準備、客への饗応、附属した行事など、演能そのもの以外の多くの情報が記されている。幕府や各藩の行事として催される場合は、幕藩政治と密接に関わることが多く、家臣団や領民がどのように能楽の催しを支えていたのかを詳細に語る資料も存在する。たとえば、萩毛利氏の江戸屋敷における演能記録からは、毛利家が家格上昇を試みた時の政治的な駆け引きが窺われ、萩城内での演能記録からは、上演に際しての家臣団の役割や観能を許可された領民たちの詳細を知ることができる。そのように、江戸幕藩体制における武家儀礼の研究において、「将軍家御成能」「御鷹之雁拝領老中招請囃子」「大名国入能」「家督就任祝儀能」「若様御誕生祝儀能」「巡検使饗応囃子」などの記録は、重要な示唆をもたらす資料と言える。また、各地の大小の寺社での演能は、地域共同体の有り様を伺うことの出来る場合もあり、町や村での私的な演能の記録は、人々の交際関係や身分関係を明らかにする上でも役立っている。一方で、その原資料は、料紙に墨書きあるいは摺られた紙片だけが伝存していたり、まとまった状態でも懐紙状に折りたたまれて複数枚をこよりや糸で綴じ合わされているものが大半で、冊子体のものは極めて少ない。それゆえ、散逸し易く、残っているものも総じて傷みが著しい。

本研究課題の代表者である樹下がセンター長を務める神戸女子大学古典芸能研究センター(以下、センター) では、2014 年よりホームページで「古典芸能研究センター蔵能番組データベース」(以下、能番組 DB) を公開している (https://noh-bangumi.yg.kobe-wu.ac.jp/)。ここでは、センターが所蔵する伊藤正義文庫「幕末明治京都等能番組集」をはじめとして、江戸時代後期の京都・大坂で演じられた能狂言の番組 2,000 点余りについて、記載された曲目および演者情報と原資料の画像を、検索可能なデータベースとして公開している。最大の特長である全点の画像表示によって、画面上で翻印との比較が可能となり、番組の全容を正確に把握することができる。また、デジタルアーカイブ化することで、閲覧の頻度が下がり、結果として原資料の劣化を抑えることにも繋がっている。

現在、能番組 DB 以外に国内で公開中の関連データベースとして、国文学研究資料館の「連歌・演能・雅楽データベース」(以下、国文研 DB)がある (https://kokubunken.repo.nii.ac.jp/records/4732)。これは、「演能記録の全国的総合調査と演能年表の編纂」(1991～93 年科研費総合研究(A)03301054　代表、故表章法政大学教授) 及び「江戸初期能番組七種－番組要綱と曲名・演者名索引」(法政大学能楽研究所紀要『能楽研究』18、19、24 号。以下、能番組七種) の成果に基づくものである。研究代表者は、1990 年代から当時勤務していた国文学研究資料館と法政大学能楽研究所の共同研究に参加し、この国文研 DB 作成事業全般のほか、演能記録の収集と近世能役者の研究に従事してきた。『江戸初期能番組七種－「番組要綱」と曲名索引と演者名総覧』(1995 年刊行)、平成 8・9・10 年度科学研究費補助金〔基盤研究費(A)(1)〕「近世以前の能役者の総合的研究」研究成果報告書Ⅰ (研究代表者：表章)『近世能役者研究の基礎資料－翻印四十種と総合名鑑二種－』(2000 年刊行) などがその成果である。その後も、演能記録データベースの将来的な発展を庶幾して、山口・広島などの江戸時代の能楽記録を中心に独自に調査を継続し、演能記録の集積に努めてきた。しかし、国文研 DB は完結型で、新規の情報を付け加えることは想定されていない。そこで、本研究 (三カ年計画) では、能番組 DB の長所を最大限に活用して、本センター所蔵資料の枠を越えた演能記録データベース (以下、演能記録 DB) の構築を目指す。

本研究は、単に能や狂言の上演目録を作成して提供するというだけでなく、依拠した原資料の画像を共に提供するという点で、画期的である。従来の目録では、上演日時、場所、目的、曲名、演者名などがデータベースとして提供されるか、原資料の翻刻という形で提供されてきた。しかしながら、役者名は多くの場合、名だけが記され、その役者の姓や流儀については、研究者が自身で調査する以外に方法はなく、結局は原資料を自らの目で確認し、周辺の状況から勘案するという作業が必要であった。本研究の目指す演能記録 DB は、原資料の画像を伴うものであるから、前後の番組や参考記事を確認することができる。同時に同一の名を持つ役者の番組がデータベ

ース上で検索できるために、上記の作業を合わせると役者の同定作業も容易く行えるという利点がある。これまでの演能記録の索引は、特定の作品の上演頻度、同一名の役者の活動時期などをおおまかに捉える場合に利用されていた。演能記録 DB では、それぞれのデータの原資料を確認することで精度を高めると共に、当該箇所の前後を検討することで、従来の索引では実現できない演能当日の全体的な把握が可能になる。また、原資料の性格が一枚物か冊子体かなどの、資料の信憑性を保証する情報も容易に得ることができる。また、「左」や「右」などの紛らわしい字形も、番組全体を見通すことで判断が容易になると考える。さらに、従来の索引や翻印では、原資料を確認する時に記載箇所を探す手間があったが、画像を伴うデータベースであれば、原資料を確認する場合も、即座にその箇所を見つけることが可能である。さらに、難読字や記載方法に関する情報も一目瞭然となるので、個別に検討する時間を大幅に縮小することができよう。

既発表の演能記録（影印・翻刻類など）はもちろん、研究代表者がこれまで把握・調査した江戸幕府や萩藩、岩国藩の記録類を中心とする演能記録、本センターで新たに収集した情報など、可能な限り演能記録 DB に反映させたい。特に、国文研 DB 所収の能番組七種については各記録類の所蔵者・機関からのデータ提供が不可欠である。近世に作成された演能記録集であるため、番組の重複や原資料の存在が認められたので、可能な限り原資料の画像データを調査・収集すると共に、関連する同時代の日記・記録との対照作業を行い、正確を期す。また、予定した研究期間において能番組 DB に他機関や個人所蔵の演能記録資料を組み込む手順を確立し、演能記録 DB へと統合する道筋を構築することで、終了後も新出の演能記録を継続して追加更新していきたい。

併せて、未公開資料も含めて、現在本センターが所蔵する約 2,100 点の原資料の多くは、受け入れ段階で既に経年劣化が著しく、修復と保存環境の整備が所蔵機関として喫緊の課題である。能楽 DB に記載した内容のなかには、劣化によって原資料で判読のつかなくなった箇所も認められる。原資料は能番組 DB の内容を保証する重要な原資料であるため、まずはその保存対策を加速させたい。

近年、新規の演能記録や幕府・藩政資料に含まれる演能関係記事の紹介が相次いで公表されている。センターの本研究の主目的は、能番組 DB を発展・拡充した演能記録 DB の構築である。これまでの研究蓄積によって得られた知見は、中世から近代に及ぶ社会の文化事象を解明する研究資材として活用されているが、データベースの発展・拡充により、様々な分野の研究者とも共同研究が可能になり、大きな成果が期待できる。本研究の従事者は、これまでも能番組 DB によって得られた知見に基づく研究成果を公表してきたが、演能番組 DB への統合作業において、さらに多くの新知見を個々のテーマにおいて公表していくことになるであろう。

2. 研究の計画

2025 年度（計画１年目）

- 本センター所蔵の能番組のうち、修復を要するものを選出して修復を行う。
- 現行の「古典芸能研究センター蔵能番組データベース」を、学外所蔵能番組の情報も盛り込む「演能番組データベース（仮）」に改変するための作業を行う。
- 能番組七種（『小鼓大倉家古能組』『天正慶長元和御能組』『古之御能組』『江戸初期能組控』『御城諸家御能組』『寛永雑記』『寛文御能組』）について、東京（法政大学能楽研究所・観世文庫・個人）・仙台（宮城県図書館）に赴き、所蔵者・所蔵機関の了承を得て画像データを入手する。
- 能番組七種の原資料となる番組を『柳営日次記』（国立公文書館内閣文庫）、『能之留帳』（法政大学能楽研究所）、各種日記（宮内庁書陵部、国会図書館、国立歴史民俗博物館、内閣文庫、東京大学、京都大学等）を参考にして収集または再現する。

2026年度（計画２年目）

- 本センター所蔵能番組の修復と保全（継続）。
- 入手した画像データと能番組七種の成果を「能番組データベース」に反映させる。
- 公表されている演能記録の情報収集と「能番組データベース」への反映。
- これまでに把握している江戸時代の藩政資料に含まれる演能記録について、画像データを入手して「能番組データベース」に反映させる。

2027年度（計画３年目）

- 本センター所蔵能番組の修復と保全（継続）。
- 公表されている演能記録の情報収集と「能番組データベース」への反映（継続）。

・これまでに把握している江戸時代の藩政資料に含まれる演能記録について、画像データを入手して「能番組データベース」に反映させる（継続）。

3. 研究の成果

「2025年度（研究計画１年目）」に基づき、以下を実施した。

・センター所蔵の能番組その他関連資料（近代の能楽雑誌類等）の修復。
・センター所蔵の能番組その他関連資料の保管環境整備（調湿・防虫対策）。
・現行の「古典芸能研究センター蔵能番組データベース」に、他機関・個人蔵等、学外所蔵能番組の情報も盛り込むためのシステム再構築作業。
・「古典芸能研究センター蔵能番組データベース」の改変を前提としたデータの再確認と情報追加作業。
・『柳営日次記』ほか、参考資料からの能番組の収集と再現作業に着手。
・未公開資料の調査と撮影
・新資料の収集および調査と撮影
・能番組を含む資料展示

4. 研究の反省・考察

現行の「古典芸能研究センター蔵能番組データベース」の機能を基に、三カ年計画で他機関・個人の所蔵資料や既発表の演能記録から情報を収集して「演能記録データベース」へと発展させる道筋を付けようと試みたが、学外の資料を取り扱うには、所蔵元や関係者の理解と了承を得ることが第一義である。一年目の計画内容はほぼ順調に進行したが、能番組七種の画像データ入手に関しては、その点において時間不足となり、叶わなかった。それに対して、現行データベースの情報により、仙台藩笛役者平岩家の縁者より家伝古文書群一式の調査依頼が寄せられ、本研究への寄与も叶った。

能番組一点毎に記されている情報は膨大で判読困難なものも多い。専門家による地道な翻字・入力作業を経て、そこから得た情報を集積していくことが結果に繋がる。能楽研究はもちろん、関連分野の研究資材としても有益と判りつつ、未だ成されぬ理由はそこに尽きよう。残念ながら本課題は一年目で終了することとなったが、古典芸能研究センターの研究計画として今後も根気強く継続していきたい。

5. 研究発表

(1)学会誌等

なし

(2)口頭発表

なし

(3)出版物

なし